

# 金沢美術工芸大学 専攻の新設等について

令和3年7月26日

金沢美術工芸大学

本学では令和5年度に専攻の新設、収容定員の変更等、以下の変更を行います。詳細は添付資料をご確認ください。

## <美術工芸学部>

- ・専攻の新設及び名称変更 . . . . . 2 ページ
- ・収容定員の変更 . . . . . 4 ページ

## <大学院修士課程>

- ・コースの新設 . . . . . 3 ページ
- ・収容定員の変更 . . . . . 4 ページ

## <三つのポリシー>

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） . . . . . 5 ページ
- ・教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー） . . . . . 7 ページ
- ・学生受入方針（アドミッション・ポリシー） . . . . . 11 ページ

※ 現在、設置構想中のため、内容は今後変更となる可能性があります。

※ 最新情報については、順次、大学ホームページに掲載します。

※ 美術工芸学部の令和5年度入学者選抜については、「令和4年度入学者選抜に関する要項」に「令和5年度入学者選抜について【予告】」を記載しています。

# [学部] 専攻の新設及び名称変更について

## 美術工芸学部

(変更後)

学 科	専 攻
美 術 科	日本画 油画 彫刻 芸術学
デザイン科	<u>ホリスティックデザイン</u> <u>インダストリアルデザイン</u>
工 芸 科	

(現行)

学 科	専 攻
美 術 科	日本画 油画 彫刻 芸術学
デザイン科	視覚デザイン 製品デザイン 環境デザイン
工 芸 科	

<変更日>

令和5年4月1日

<専攻概要>

<p>&lt;新設&gt; ホリスティック デザイン Holistic Design</p>	<p>デザインで扱う対象がモノ中心からコト中心に変化し、「サービス」や「体験」といった目に見えないものにまでデザインの領域が広がっている。このような複合的な要素がからむ問題に対して、「俯瞰的な視野を持って課題を解決できる人材」が社会から必要とされている。</p> <p>令和5年度に新設する「ホリスティックデザイン専攻」は、そうした時代の要請に応じ、コミュニケーションから場のデザインまで、多様な領域を学際的に学び、急速に変容していく価値観に柔軟に対応できる人材を輩出する。</p>
<p>&lt;名称変更&gt; インダストリアル デザイン Industrial Design</p>	<p>「製品デザイン専攻」では柳宗理が推し進めた工房教育を継承し、プロフェッショナルなデザインスキルを身につけるためのカリキュラムを進化させてきた。近年では、社会や文化、産業構造、技術の進化などを意識した授業内容を構築しており、製造やシステム、インタラクション、サービス全てを網羅した産業そのものをデザインする教育を実践するという意味で「製品デザイン（プロダクトデザイン）」から「インダストリアルデザイン」に名称を変更する。</p> <p>「インダストリアルデザイン専攻」ではモビリティ、ICT、家具、家電、日用品、医療・福祉、システムやサービス、体験価値の創出などを幅広く学び、産業の発展に貢献する力をつける。自らの手を動かしながら素材と技術を学び、感性を磨く教育を実践する。</p>

# [大学院修士課程] コースの新設について

## 大学院

(変更後)

課 程	専 攻	コース・研究分野・研究領域
修士課程	絵 画	日本画 油画 <b>映像</b>
	彫 刻	彫刻 環境彫刻
	芸 術 学	美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史 工芸史
	工 芸	陶磁 漆・木工 金工 染織
	デザイン	視覚デザイン 製品デザイン 環境デザイン
博士後期課程	美術工芸	美術 工芸 環境造形デザイン 芸術学

(現行)

課 程	専 攻	コース・研究分野・研究領域
修士課程	絵 画	日本画 油画
	彫 刻	彫刻 環境彫刻
	芸 術 学	美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史 工芸史
	工 芸	陶磁 漆・木工 金工 染織
	デザイン	視覚デザイン 製品デザイン 環境デザイン
博士後期課程	美術工芸	美術 工芸 環境造形デザイン 芸術学

<変更日>

令和5年4月1日

<コース概要>

<p><b>&lt;新設&gt;</b> <b>映像</b> <b>Moving Image</b></p>	<p>令和5年度に新設する「絵画専攻 映像コース」では、現実の変化を捉える観察を基礎とし、多角的な映像表現の探求を目標とした教育研究を行う。制作・研究の場では技術の修得によって映像表現についての見識を深めるとともに、作品の完成に向けて課題の解決を目指す。また、学外での作品発表を奨励し、専門領域の研究についての助言を与え、作家、研究者として国際的に広がる映像文化と地域社会の発展に寄与する人材を育成する。</p>
--	--

# [学部・大学院] 収容定員の変更について

## 美術工芸学部

(変更後)

学 科	専 攻	入学定員	募集人員		収容定員
			学校推薦型選抜	一般選抜	
美術科	日本画	15人	0人	15人	60人
	油画	25人	0人	25人	100人
	彫刻	15人	0人	15人	60人
	芸術学	<u>10人</u>	※ <u>3人</u>	<u>7人</u>	<u>40人</u>
	計	<u>65人</u>	<u>3人</u>	<u>62人</u>	<u>260人</u>
デザイン科	<u>ホリスティックデザイン</u>	<u>40人</u>	<u>0人</u>	<u>40人</u>	<u>160人</u>
	<u>インダストリアルデザイン</u>	20人	2人	18人	80人
	計	60人	<u>2人</u>	<u>58人</u>	240人
工 芸 科		<u>30人</u>	<u>6人</u>	<u>24人</u>	<u>120人</u>
合 計		<u>155人</u>	<u>11人</u>	<u>144人</u>	<u>620人</u>

※石川県枠を廃止

(現行)

学 科	専 攻	入学定員	募集人員		収容定員
			学校推薦型選抜	一般選抜	
美術科	日本画	15人	0人	15人	60人
	油画	25人	0人	25人	100人
	彫刻	15人	0人	15人	60人
	芸術学	15人	※ 5人	10人	60人
	計	70人	5人	65人	280人
デザイン科	視覚デザイン	20人	2人	18人	80人
	製品デザイン	20人	2人	18人	80人
	環境デザイン	20人	2人	18人	80人
	計	60人	6人	54人	240人
工 芸 科		20人	2人	18人	80人
合 計		150人	13人	137人	600人

※石川県枠2人

## 大学院

(変更後)

課 程	専 攻	コース	入学定員	募集人員	収容定員
修士課程	絵 画	日本画	<u>14人</u>	<u>14人</u>	<u>28人</u>
		油画			
		映 像			
	彫 刻	4人	4人	8人	
	芸術学	4人	4人	8人	
	工 芸	<u>13人</u>	<u>13人</u>	<u>26人</u>	
修士課程	デザイン	<u>6人</u>	<u>6人</u>	<u>12人</u>	
	計	<u>41人</u>	<u>41人</u>	<u>82人</u>	
博士後期課程	美術工芸		7人	7人	21人
合 計			<u>48人</u>	<u>48人</u>	<u>103人</u>

(現行)

課 程	専 攻	コース	入学定員	募集人員	収容定員
修士課程	絵 画	日本画	10人	10人	20人
		油画			
	彫 刻	4人	4人	8人	
	芸術学	4人	4人	8人	
	工 芸	9人	9人	18人	
	デザイン	10人	10人	20人	
修士課程	計	37人	37人	74人	
	博士後期課程	美術工芸		7人	7人
合 計			44人	44人	95人

## 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

### ■学士課程

学則第1条で定められた学部の目的、「金沢美術工芸大学は、広い教養を授け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする」の達成のために、美術工芸学部においては3つの教育目標を定め、さらに各科・専攻で具体的な教育方針を設けている。

これらに則って、次の4つの学習成果を修め、かつ所定の単位（124単位）を修得した者に学士（芸術）の学位を授与する。

1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。
2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。
3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。
4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。

### ■修士課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、大学院学則第1条において、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としている。

大学院における前期2年間の修士課程においては、大学院学則第2条第3項で定められた目的、「広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度な能力を養うことを目的とする」の達成のために、各専攻では具体的な教育目標を掲げている。

各専攻の教育目標に則って、次の3つの学修成果を修め、所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士作品又は修士論文を提出して、委員会の審査及び試験に合格した者に、修士課程の修了を認定し、修士（芸術）の学位を授与する。

1. 絵画、彫刻、芸術学、工芸、デザインの各分野の制作や学術研究における高度で幅広い知識を体系的に修得・理解し、応用できる。
2. 固有の芸術領域における創作・研究に求められる高度で専門的な技術や論理的思考力を獲得し、表現活動又は研究活動を積極的に展開できる。
3. クリエーター・研究者として独創的で、自由な創作活動又は研究活動を行い、地域社会、国際社会に向けて有為かつ先端的な文化を発信できる。

### ■博士後期課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、大学院学則第1条において、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としている。

博士後期課程では、大学院学則第2条第4項で定められた目的、「芸術に関する高度な創造及び表現の技術

と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度の能力を備えた美術家及び研究者を養成することを目的とする」に則って、次の3つの成果を達成し、所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文及び必要に応じて研究作品を提出して、委員会の審査及び試験に合格した者に、博士後期課程の修了を認定し、博士（芸術）の学位を授与する。

1. 美術工芸における各研究領域・分野において、高度な学識を有し、理論の確立を成し遂げている。
2. 高度専門職業人として、自立して創作・研究活動を行うための技能や社会性を身につけており、かつ独創的な活動が継続的に行える。
3. 美術家・研究者として地域社会、国際社会の文化の創造・進展に寄与できる。

## 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

### ■ 学士課程

美術工芸学部の教育目標で求められる学修成果を修めるために、下記の事項を踏まえて、学生が段階的に学べるよう、体系的に教育課程を編成する。

1. 学部教育の4年間の前期において語学、体育を含む一般教育を中心に履修し、その基盤の上に専門基礎科目を履修する。高学年になるに従い専攻科目などの専門科目の割合が増えるような科目編成とし、一般教育科目と専門科目の連携をめざしながら体系性を保持し学習効果の保証を図る。
2. 専門教育科目の基礎科目においては、自専攻・科以外の分野を選択履修し、さまざまな技法や素材に触れ、多様なメディアを用いた表現や複合的な表現が可能となる科目編成とする。
3. 専門教育科目の専攻科目については、各科・専攻のコアとなる科目を体系的に編成することにより順次性をもって学習し、4年間の成果の集大成として卒業制作・論文を課す。

#### 【美術科日本画専攻】

1年次、2年次を基礎的課程として捉え、専攻科目の日本画（一）Ⅰ・Ⅱ、（二）Ⅰ・Ⅱを通して、日本画制作の基礎となる観察力や描写力、表現力を育むとともに、日本画材の扱い方や伝統技法を学びます。また、絵画造形の諸要素やその背景にある文化についての知識を修得します。3年次日本画（三）Ⅰ・Ⅱでは大作を含む課題制作を通して自己表現を模索・考察すると共に、主題に応じた画面構成や表現方法など創造の視野を広める指導を個別に行います。4年次は日本画（四）Ⅰ・Ⅱにおいて表現や理論の独自性の深化を図り、後期にその集大成として卒業制作を行います。これらの演習では外部講師を招へいするなど客観的な評価を目指します。

#### 【美術科油画専攻】

1年次、2年次を基礎的課程として捉え、専攻科目の油絵（一）Ⅰ・Ⅱ、（二）Ⅰ・Ⅱを通して、描写力や造形美術における基本的理念を学び、絵画等に関する知識と技能を修得します。3年次からは絵画表現、映像表現、ミクストメディア・空間表現の3コースを中心とした指導を行い、創作の表現力、構想力を伸長し、油絵（三）Ⅰ・Ⅱの成果として進級制作を行います。4年次には作品の独創性、現代性に留意し、油絵（四）Ⅰでは前期制作、油絵（四）Ⅱでは4年間の集大成として卒業制作を行います。実技の評価は合評会形式で行い、自己のプレゼンテーション能力を養うとともに、外部講師を招へいするなど客観的な評価を目指します。

#### 【美術科彫刻専攻】

1年次、2年次を基礎的課程として捉え、専攻科目の彫刻（一）Ⅰ・Ⅱ、（二）Ⅰ・Ⅱを通して、造形力や造形美術における基本的理念を学び、彫刻等に関する知識と技能を修得します。3年次からは素材選択制による個別指導を行い、創作の表現力、構想力を伸長し、彫刻（三）Ⅰ・Ⅱの成果として進級制作を行います。4年次には作品の独創性、現代性に留意し、彫刻（四）Ⅰ・Ⅱを4年間の集大成として位置づけ、卒業制作（前期・後期各1課題）を行います。実技の評価は合評会形式で行い、自己のプレゼンテーション能力を養います。発表活動を奨励し、彫刻論では外部講師を招へいするなど、多様な指導を行います。

#### 【美術科芸術学専攻】

- 1、2年次の芸術学演習（一）、（二）では、グローバルな視覚文化に関わる歴史、批評、理論、制作の基礎

を学際的に学び、芸術学概論・特論では、現代の美術市場と批評を念頭に置いた、領域横断的な実技制作の授業を行います。また、そのために必要なスタディスキルと日本語と英語による自己表現力を鍛え、理論と制作実技の相乗効果を図ります。3年次の芸術学演習（三）では、各教員の専門性を活かし、より高度な制作・キュレーション・研究を学生主体で行います。4年次には学部4年間の集大成として、各自が企画する研究プロジェクトを指導教員のもとで更に発展させ、地域より成り立つ国際社会の発展に広く貢献しうる高い水準の卒業研究（論文／制作）の完成を目指します。

#### 【デザイン科ホリスティックデザイン専攻】

1年次では、描出、形態、色彩、発想、素材、情報といった演習を中心に、デザインに共通する基礎力を修得します。2年次では、1年次での学びを基盤として、より専門的な技能を横断的に学び、自分の進む道を主体的に選択できる判断力を修得します。3年次では、実践をともなう応用的な演習に加え、社会で活躍するために必要な視点と、総合的な企画力を修得します。4年次では、担当教員の指導のもと、自身のテーマに向き合い、いままでに学んだ経験を集約して、卒業制作に昇華します。

#### 【デザイン科インダストリアルデザイン専攻】

1年次では基礎課題を通して表現力、アイデア発想力を育み、様々な素材の特性と加工技術を学びながら基礎造形力を身につけます。2年次には機能、コンセプト、プロトタイピング、製造法などの切り口からプロダクトデザインの演習を行います。3年次には、調査・分析・企画・試作・検証まで一貫したプロセスを通してインダストリアルデザインの手法を体得するとともに、産学連携などにより実務能力を高め社会性を身につけます。4年次には社会課題や公共性をテーマとした演習を行い、これまでの専門演習を結集して卒業制作に取り組みます。実技においては、専門性の高い外部講師を含めた複数の教員が指導にあたり、評価も複数の教員で総合的に行い客観性を高めています。

#### 【工芸科】

工芸科の1年次には基礎的な造形力・描写力の修得と4コース（陶磁、漆・木工、金工、染織）に係わる素材の特性と技術を学びます。1年次の最終課題より自身の選択するコースに分かれ、伝統技法に基づいた基礎技術を2年次より重点的に学びます。1年次から3年次前期にかけて技術面のみならず、思考力、構想力を育み、コンピュータを用いた3D造形表現やプレゼンテーション能力向上を目指します。さらにコース外の素材や技術などを複合的に扱い表現する応用力を養います。3年次後期から4年次では各自の主体的テーマでの研究を深め、卒業制作に取り組みます。工芸科全教員による講評会を行い、客観性を高めます。

#### ■修士課程

修士課程においては、美術、工芸、デザインに関する高度で自立した創作・研究活動を可能にするため、学生の個性に基づいた「多様化」を尊重し、表現の「自由化」と「言語化」及び教育の「高度化」を推進し、地域と国際社会における「社会化」を実践する能力の育成を教育の指針にしています。

教育課程においては、これらの教育の指針や各専攻の教育目標を具体化した演習、講義科目をコースワークとリサーチワークとして編成し、選択・必修科目として、各専攻・コースの専門性に沿って科目の配置を行い、『研究指導計画書』に基づいて指導を行っています。研究の集大成として修士作品又は修士論文を課し、研究成果の審査を行います。

#### 【絵画専攻日本画コース】

日本画を中心とした芸術における専門的かつ幅広い見識と理論的知識を「絵画特論」での各教員個別の講



義の中で深化し、「絵画技法演習」では伝統的表現方法の研究を踏まえながら自由で独自の表現を追求します。「日本画制作（一）（二）」において、各自の研究を追究するとともに各種展覧会への出品等の研究発表をも活発に行うことで、高い創造性と独創性を有する作家としての自立を目指します。そして修了制作においてそれらの研究成果を集約します。

#### 【絵画専攻油画コース】

「油画制作（一）」および「油画制作（二）」において、高度な表現技術を伴う研究制作を実現するために、古典から現代に至る国内外の作品を分析するとともに、「絵画技法演習」において油彩画の組成や絵画技法上の応用展開としての版表現の技法を考察します。また、「絵画特論」では各教員独自の美術論を学びながら専門的な広い見識を深め、プレゼンテーションワークや制作論を通して制作に客観的な視点を加えます。集中的かつ緻密な合評指導を経て、集約された研究の成果として進級制作（1年次）、前期制作（2年次）、修了制作（2年次）を行います。

#### 【絵画専攻映像コース】

「映像制作（一）」および「映像制作（二）」において、高度な表現技術を伴う研究制作を実現するために、初期映画から同時代の映像表現に至る国内外の作品を分析するとともに、「映像技法演習」においてフィルムの取り扱いやデジタル表現の技法について学びます。また、「映像特論」では映像表現を中心とした映像学、美術理論について学びながら専門的な広い見識を深め、プレゼンテーションワークや制作論を通して制作に客観的な視点を加えます。集中的かつ緻密な合評指導を経て、集約された研究の成果として進級制作（1年次）、前期制作（2年次）、修了制作（2年次）を行います。

#### 【彫刻専攻】

「彫刻」および「環境彫刻」両コースとも、それぞれのテーマに準じて、基本となる表現素材の選択のもと、表現方法と現代芸術とのかかわりを考察して各自の造形理論を深め、高度な研究制作活動の展開を図ります。「彫刻特論」では彫刻を中心に20世紀以降の造形芸術に対して考察を加え、各自の造形観を理論面から構築します。また、国内外で幅広く活躍中の先進的な作家を招聘し、多様化する現代美術に即応する演習を行います。

#### 【芸術学専攻】

学部の教育方針を基盤とし、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史の5つの専門分野において学術的により高度な研究を行うことを目標とします。自ら問題を設定し、実作品に即しながら多様な文献資料を用いて研究を進めることを重視します。分野を横断し、総合的・学際的に研究するための「芸術学特論」、美術大学という環境を生かし、素材や技法についての専門的な知識を深める「美術技法研究」を専攻必修科目としています。広い視野を持ちながら、緻密な論理に基づく研究を探究します。

#### 【デザイン専攻視覚デザインコース】

「視覚デザイン演習（一）」および「（二）」において高い専門性を備えたコミュニケーション・デザインの具現化を目指します。個々の学生の持つテーマに沿った研究と制作を歴史や事象を踏まえ、「視覚伝達論演習Ⅰ～Ⅵ」ではさらに個々の専門性を深めつつ、メディアを駆使して実践します。また産学連携、地域連携などの事業を通して社会とのリアルな繋がりからディレクション能力を強化するとともに、社会の問題と向き合ったテーマを高い客観性を持つ表現として修了制作に昇華させます。

### 【デザイン専攻製品デザインコース】

学部で修得した製品デザインの基礎的、総合的な知識と技術の先にある、より専門性の高いデザイン領域に向い合う授業科目としてⅠ～Ⅴの各製品計画論演習を配置しています。そして、各特論と製品デザイン演習Ⅰ、製品デザイン演習Ⅱにおいてデザイナーとしての主体性や計画性、論理性や表現力を錬磨し、各自の目指す領域におけるプロフェッショナルとして求められる力を体得します。それらの集大成として修了制作を位置づけています。専門領域におけるマンツーマンの指導と、各専門領域を包括するディスカッションの場を定期的に設けています。

### 【デザイン専攻環境デザインコース】

学部教育における造形基礎を含め、専門的な制作と研究をもとに、自己研鑽を原動力として研究と制作に打込める体制を取っています。特にディレクション能力の強化を柱に学部から修士までの6年間を一貫教育として捉えています。さらに各自の研究テーマをより深化することを目的に論理的なアプローチを支援する科目も整えています。また並行して社会的なプロジェクトや課外活動を積極的に取り入れて、制作の視野を広げる取組みを奨励し、これに関連付けて研究・制作に活かすよう指導しています。これらを組合わせて、学生個々の独自性を重視することにより社会への新たな意義を提言することに繋がります。

### 【工芸専攻】

学部での研究制作を基礎とし、各専門領域におけるより高度な研究制作を行います。「工芸演習(一)(二)」では自らの研究テーマを設定し、表現・技法、そして論理的考察を踏まえて研究制作を進めます。同時に工芸と文化の関係性について幅広い視野を得るために、外部講師を招く「工芸特論」と「地域文化論」の講義を専攻必修科目としています。また定期的に工芸造形表現・産業工芸表現の枠組みで、素材・技法を超えた研究会を設け、学生と全教員によるディスカッションを通して、研究内容をより実践的なものへと導きます。伝統的な素材・技法を礎として、新たに開発される最先端素材や技術を重ね合わせ、考察します。多様化する現代社会の変化に対応し、次代を切り拓く創造的な表現の追求を目指します。

### ■博士後期課程

博士後期課程の教育課程には、コースワークとして全領域必修科目である「地域美術演習」、「造形総合研究」及び各領域の選択科目の「研究制作」又は「研究演習」が置かれ、各領域・分野等における総合的、専門的な研究を行っています。さらに、リサーチワークとして全学年必修である「研究領域研究指導」において理論面から論文作成指導を行います。自立して高度な創作・研究活動を可能にするための指導を『研究指導計画書』に基づき実技と理論の両面から受けるほか、1・2年次生は年に2回、研究成果を発表する共同発表会を学生の自律的な運営により開催し、3年次生は論文等審査期間中に、実技系においては研究作品展示を、理論系においては口頭による研究発表を行います。

## 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）

### ■学士課程

金沢美術工芸大学は、工芸美術の継承発展と地域の文化と産業の振興に寄与すべく 1946 年に創立されました。以来、個性豊かな教育・研究活動に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担いつつ、美術・工芸・デザイン界で活躍する数多くの人材を輩出してきました。

金沢美術工芸大学は、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、次の3つの教育目標を掲げています。

1. 地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。
2. 深く芸術の神髄を探究し、美術・工芸・デザイン分野における卓越した知識と技術を継承することによって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担う人材の育成を目指す。
3. 市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核として、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する人材の育成を目指す。

このような教育目標に共鳴し、美術・工芸・デザイン分野における知識と技術の担い手となる意欲と資質を備え、積極的に勉学に取り組む主体性のある人を金沢美術工芸大学は求めています。

入学を希望する諸君に金沢美術工芸大学が望むのは、デッサン等の実技能力を養っておくことに加え、高等学校までの各教科・科目をできる限りしっかりと修得しておくことです。広い視野と基礎的な学力があってはじめて、自らの問題意識を掘り下げて、より高度な制作・研究に進むことが可能になります。一般選抜試験では、すべての専攻が大学入学共通テストにおいて「国語」及び「外国語」を必須の試験科目として課しています。入学後の授業では、制作課題のプレゼンテーションやレポートなど、言語による表現が要求されます。また、筋道立てて読みとる読解力はあらゆる学問・情報に接近するために不可欠な基礎的能力だと考えます。

金沢美術工芸大学では、各専攻がその理念と教育方針に応じて、入学者選抜試験における教科・科目及び実技、小論文、面接等の要件を設定し、明確な目的意識をもった人の入学を求めて「求める学生像」を公表しています。また、美術科芸術学専攻、デザイン科インダストリアルデザイン専攻及び工芸科では学校推薦型選抜を実施しています。

学修に必要な技能と基礎的な学力を備え、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」を目指して勉学に励むことができる人を金沢美術工芸大学は広く求めます。

### 美術科

美術科では、高度で創造的な技術の修得とその応用をはかり、古典から現代までをつらぬく美術理論を学びます。各専攻はそれぞれの専門にふさわしい目標を定め、特色あるカリキュラムを編成しています。将来、作家や研究者をはじめ、これからの美術分野で活躍し、貢献する人材の育成を目指しています。

このことから、美術科では次のような人を求めます。

#### 日本画専攻

- ・ 絵画に関する基礎的な描写・表現力や観察力並びに知識を有する人
- ・ 芸術について強い興味と意欲が有り、将来広く美術の応用面に携わる事を望む人
- ・ 将来、作家として広く国内外で活躍したいと希望する人

#### 油画専攻

- ・絵を描く事が好きで、自己表現に向けて努力できる人
- ・基礎的技術を高め、知識を深めたい人
- ・国際的な美術の動きに興味を持っている人

#### 彫刻専攻

- ・造形の「美」や「表現」に対して強い好奇心と探求心を持つ人
- ・「自然」や「素材」と素直に向き合い、粘り強く制作に取り組める人
- ・開かれた世界で活躍する強い意志と夢を持った人

#### 芸術学専攻

- ・複雑で多様な現代社会における芸術に対して高い関心と問題意識を持つ人
- ・領域横断的な実技制作や論理的思考による視覚文化研究の双方に取り組める人
- ・世界への広い興味と好奇心を持ち、地域より成り立つ国際社会に貢献する意欲のある人

#### デザイン科

デザイン科は、専門分野における教育をより高度なものとした特色あるカリキュラムを編成しています。グローバル化や多様化の進む現代の社会において、デザインの世界を広く捉え、優れた専門性を発揮できる人材の育成を目指しています。

このことから、デザイン科では次のような人を求めます。

#### ホリスティックデザイン専攻

- ・あらゆる事や物に好奇心を持ち、思考を止めず、手を動かし続けることができる人
- ・人と関わるのが好きで、多様な意見を柔軟に取り入れ、自分の答えを見出す人
- ・金沢のまちを学びの場として、デザインの力で世界をよりよくしたいと願う人

#### インダストリアルデザイン専攻

- ・自らの手で、ものづくりをすることが好きで基礎的な表現力を備えている人
- ・人や生活、プロダクトへの関心が高く、コミュニケーションに積極的な人
- ・デザイナーとしてグローバルに活躍することへの意欲を持っている人

#### 工芸科

工芸科は、1年次で様々な素材に触れる体験から基礎的な造形力を養います。1年次の最終課題以降は陶磁、漆・木工、金工、染織のいずれかのコースを選択し、各々の素材に関する多様な技術の修得、現代の社会的ニーズに適応したより高度なものづくりや造形表現に取り組めます。4年間を通して世界に発信する工芸作家、研究者、デザイナーの養成を目指しています。

このことから、工芸科では次のような人を求めます。

- ・基礎的な表現力を有し、工芸に対し幅広く関心を持つ人
- ・素材、技法、表現に対して、柔軟な対応力を有する人
- ・将来、工芸を通して広く国内外で活躍したいと希望する人

## ■修士課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

大学院における前期2年間の修士課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度な能力を養います。

このことから、大学院美術工芸研究科修士課程では、専攻ごとに、次のとおり教育目標を定め、個別の選抜試験を行っています。修得しておくべき知識、技能を「求める学生像」として専攻ごとに記載しています。

### 《絵画専攻日本画》

#### 教育目標

日本画を中心とした絵画において専門的かつ広い見識を深めるとともに、創造性に富んだ高度な内容の制作を積極的に研究します。また、各種展覧会への出品など発表活動も推奨し、自己の作品の評価を広く世に問い個性的表現の確立を目指します。さらに、理論的知識を深め伝統的な表現方法の研究を踏まえ、自由かつ独自の発想に基づき創造表現の世界を追究することで、多様化する新しい芸術の展開にも対応します。

#### 求める学生像

- 日本画領域は勿論のこと、絵画表現全般における基礎的知識と技術を有する人
- 専門性の向上及び表現の修練と研鑽を通し、次世代の優れた表現を志す人
- 意欲的に研究成果発表を行い、広く社会に通じる絵画表現の展開を志す人

### 《絵画専攻油画》

#### 教育目標

個性と表現の確立を目指し、現代の絵画表現に対応した教育研究を行います。研究制作の場では技法研究や見学・取材活動により芸術表現についての見識を深め、作品化に向けて着実に研究を進める姿勢を養います。また、学外における個展、公募展等の発表活動を奨励し、将来に向けた制作や専門領域の研究、留学についての助言を与え、作家、研究者として美術界や美術教育及び地域文化の発展に寄与する人材の育成に努めます。

#### 求める学生像

- 絵画に関する知識と技術を用い、自主的に研究制作が行える人
- 高度な表現技術を求め、研究成果を国際的に発信する意欲を持った人
- 美術教育や地域文化発展に高い目的意識を持って臨む人

### 《絵画専攻映像》

#### 教育目標

現実の変化を捉える観察を基礎とし、多面的な映像表現の探求を目標とした教育研究を行います。制作・研究の場では技術の修得によって映像表現についての見識を深めるとともに、作品の完成に向けて丁寧に課題の解決を目指します。学外での作品発表を奨励し、専門領域の研究についての助言を与え、作家、研究者として国際的に広がる映像文化と地域社会の発展に寄与する人材の育成に務めます。

#### 求める学生像

- 映像に関する知識と技術を用い、自主的に研究制作が行える人
- 高度な表現技術を求め、研究成果を国際的に発信する意欲をもった人
- 映像文化や地域社会の発展に高い目的意識を持って臨む人

## 《彫刻専攻》

### 教育目標

制作・研究活動での専門性の深化をより可能とするため、本専攻では、塑造、木彫、石彫、金属彫刻等の制作を行う「彫刻コース」と、コンセプチュアルな造形やジャンルを横断した造形等に対応する「環境彫刻コース」を設けています。両コースは、相互に交流を図りながら、自由かつ柔軟な発想で独創的な制作や研究活動を進めています。これらの活動の中で自身の能力を存分に発揮し、創造性を高め、作家、研究者、指導者として現代社会や芸術文化発展に貢献し得る人材の育成を目指します。

### 求める学生像

- 制作、研究意欲が旺盛で論理的思考力に優れ豊かな自己表現ができる人
- グローバルな視野を持ち、活動を世界に展開できる人
- 斬新な発想力を持ち、表現者や教育者として地域や社会に貢献できる人

## 《芸術学専攻》

### 教育目標

学部の教育方針を基盤としつつ、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史の5つの専門分野を置き、学術的により高度な研究を行います。また、技法・素材の専門的、実際の情報が豊富な美術大学の特性を生かしつつ、金沢を中心とした美術館・博物館施設を活用した現場研修や展示企画も指導しています。国内外での実地調査や研究成果の公開を支援し、理論と実践を兼ね備えた美術の専門研究者の育成を目指します。

### 求める学生像

- 学部での成果をもとに、問題意識をさらに深めて学術的に追究することに意欲のある人
- 芸術学領域の専門研究に必要な語学力を有し、調査研究能力に優れた人
- 高度な学術的成果を芸術の専門分野で展開し、社会に貢献できる人

## 《工芸専攻》

### 教育目標

学部での研究制作を基礎とし、より高度な表現能力と論理的な思考力を身につけることを目標とします。演習に重点を置きながら論理的思考力を高めるための理論科目を設け、歴史的な考察や、素材と技術についての探究を通して各自の研究制作を強化します。常に時代を切り拓く創造的な表現を追究しつつ、多様化する現代の要求に対応し社会に貢献し得る作家、研究者、指導者の育成を目指します。

### 求める学生像

- 各専門分野に関する基礎的な技術と知識及び表現力を有する人
- 素材の可能性と表現について探究心旺盛で、これからの創造的な工芸の世界を切り拓くことに意欲のある人
- 作家・研究者及び指導者として広く社会に貢献し、活躍することを志す人

## 《デザイン専攻視覚デザイン》

### 教育目標

幅広い視覚デザインの領域の中から、一人ひとりの研究計画に合わせて、専門性を持った教員が一丸となって指導にあたります。高度な社会性と国際性を修得し、実践的なカリキュラムを通じてクリエイティブに不可欠なアイデア発想能力とコミュニケーション表現技術を身につけることで、広い分野で活躍できるクリエイターの育成を目指します。

### 求める学生像

- 視覚デザインの専門性を深め、主体的に研究を追求する意欲のある人
- 斬新な発想力を持ち、柔軟性と独創性に優れ、もの作りに喜びを感じる人
- 社会との関わりを大切にし、人と人がつながる事に喜びを感じる人

#### 《デザイン専攻製品デザイン》

##### 教育目標

デザイナーとしての明確な研究目標を持たせ、高度な水準の実証的デザインを推進し実現する力を養成します。教育にあたっては、教員それぞれの専門領域に根ざした論理的思考や、探究力、表現力、伝達力などを実践的な形で丁寧に指導しています。調査、企画、仮説モデルの展開と検証、1 / 1 モデル制作等を徹底して追究し、時代をリードする完成度の高い製品提案を行える人材の育成を目指します。

##### 求める学生像

- 製品デザインの技術や知識を磨いて、デザイナーとして活躍する目標を抱いている人
- 自分の目標とする主な製品デザイン領域をしっかりと考えている人
- 人の生活と向き合う真摯な態度と、デザイナーとしての創造力や独創力を発揮する意欲をもっている人

#### 《デザイン専攻環境デザイン》

##### 教育目標

将来の活動領域に応じて空間デザインに関わる専門能力(構想する力、設計する力、表現する力) を確立・深化するため、指導教員がマンツーマンで研究制作活動を指導します。同時に、造形における幅広い知識と教養を身につけるため、共通選択科目により、国際的視野と領域拡大の基礎を養います。またコンペティションや地域連携事業を自主的な制作・発表の場と捉え、社会及び世界との関わりを重視したカリキュラムとしています。以上を修得した人材を送り出します。

##### 求める学生像

- 空間デザインの専門性をさらに深めようとする人
- コミュニケーション力を養い、ディレクション能力を高めようとする人
- 実務的な能力を高め、社会との接点を見出そうとする人

#### ■博士後期課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

博士後期課程では、芸術に関する高度な創造及び表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度な能力を備えた美術家及び研究者を養成します。

このことから、大学院美術工芸研究科博士後期課程では、美術工芸専攻のそれぞれの研究領域・研究分野にふさわしい資質と研究能力を審査するため、各研究分野ごとに小論文(芸術学以外)、論文又は作品、語学、口述により試験を行います。

美術工芸専攻では次のような学生を求めています。

- 志願する研究領域・分野についての知見を有し、言語化する能力を備えている人
- 自立して創作、研究活動を行うための表現技術、知識を備えている人
- 地域及び国際社会における美術工芸の発展に寄与しようとする意欲を備えている人
- 外国語によるコミュニケーション能力を備えている人